

選挙控え 政治に関心深めて 争点・政党主張 高3学ぶ

京都橘高 模擬投票や公約調査

7.21
参院選
京都



ネットで調べた政党の主張を模造紙に書き込む生徒ら
(京都市伏見区・京都橘高)

参院選を前に、京都市伏見区の京都橘高でこのほど、選挙の争点や主要政党の主張を学ぶ授業が行われた。3年生12人が消費増税

や憲法改正をテーマに各党の公約を調べたり、模擬投票を体験したりして政治への関心を深めた。若者の投票率向上に取り組むNPO法人「Mieika(ミエルカ)」(上京区)の理事、東大地さん(27)が講師を務めた。生徒たちは「消費増税」

「憲法9条」「外国人労働者の受け入れ」の3班に分かれ、インターネットで自民党や立憲民主党など7党の主張を検索。消費増税の班では「増税したら景気に悪影響」「社会保障制度の維持には増税は必要」など各党の立ち位置の違いをまとめて模造紙に書き込んだ。

模擬投票では、実際の党名を記入。結果は参院選後に開票するという。参院選が初めての投票の機会という佐藤拓さん(18)は「今まで二ユースを見ても中身が分からないことが多かったけど、授業を通して関心が高まった。参院選には絶対に行く」と意気込んでいた。

(田代真也)